

## 檜葉町除染検証委員会（第 5 回）議事要旨

日 時：平成 26 年 11 月 25 日（火）11:00～17:00

場 所：檜葉町役場 3 階 大会議室

出席委員：児玉委員長、塩沢副委員長、秋光委員、佐藤委員、仁多見委員、野川委員

配布資料：

議事次第

配席図

出席者名簿

檜葉町における除染の効果及びフォローアップの状況について [環境省] [資料 1]

小山浄水場が供給する水道水の現状と安心に向けた取組について [復興庁、内閣府、厚生労働省、環境省、福島県、双葉地方水道企業団] [資料 2]

檜葉町モニタリング結果及び除染仮置場監視員について [檜葉町] [資料 3]

第二次報告に向けた現状等の確認・整理（案） [資料 4]

第二次報告に向けた現状等の確認・整理（案）論点表 [資料 4 別添]

檜葉町除染検証委員会第一次報告書 [檜葉町除染検証委員会] [参考]

「帰町の判断」について [参考]

本委員会におけるこれまでの検討経緯 [参考]

フォローアップ除染箇所 [視察資料]

檜葉町除染検証委員会レポート（秋光委員提出） [追加資料]

議 事：

### 1. 町長挨拶

松本檜葉町長より挨拶がなされた。

### 2. 委員長挨拶

児玉委員長より挨拶とともに、[資料 4 別添] に基づき、第二次報告に向けた現状等の概要報告を行った。生活環境における線量管理と防護対策、個人の被ばく線量観測とコミュニケーション、水と食品の安全確保、農業・漁業の再興、森林の安全確保、災害廃棄物への対応等移送のための交通網の確保の各論点について俯瞰的に説明がなされた。その後、各委員から一言ずつ意見を述べた。

- 福島県の試験栽培の結果を見ると、そのほとんどは基準を超えていないことがわかる。ここから、セシウムは土壌に強く固定されて、水に溶けづらく、農地で作られた作物には吸収されにくいことが言える。農地で作られた食物は安全だろうと考えることができる。ただし、農地で作られていないキノコ類等は依然として線量が高い。
- 食品の測定器の充実が望まれていけよう。また、キノコ類の線量が高いので、その吸収機能の解明などが求められる。
- 第二次報告に向けては、第一次報告時に用いたデータから 1 年間の推移が大切である。また、食品の検査体制を作り、安全から安心へ、信頼性をどう浸透させるかが大切であり、相談員制度に注目している。
- 森林について、効率的に、確実に放射性物質を除去していくことが大切だと考えている。森林

のローテーションを考えた伐採計画が大切だろう。

- 水の安全・安心について議論したい。水の連続モニタリングについても議論したい。
- 未曾有の災害が起こった地域であり、将来、子どもが胸を張れる檜葉を目指すことが大切だと考えている。若い人たちの協力を得て進めなければならない。委員会では、地産地消の町という原点を取り戻し、住民の環境を取り戻すために検討を進める。また、このような委員会の取り組みは継続していくことが大切であり、そのためのロードマップが必要だろう。

### 3. 除染について（資料 1）

環境省より、資料 1 に基づき、檜葉町における除染の効果およびフォローアップの状況について説明がなされた。

### 4. 現場視察および検討（視察資料）

フォローアップ除染状況について、視察を行った後、検討を行った。検討の概要は以下の通り。

- 住民の要望は多様であって、また、個別の状況はそれぞれに異なるのであって、これらが複雑に組み合ったところで、フォローアップ除染を実施していかなければならない。フォローアップ除染は、住民の要望にどう応えていくか、がポイントになる。その際には公平性も考えていく必要があり、前に進めるためにどうすればよいかを考えなければならないだろう。

→（環境省）今年度は、個別の状況を見ながら、屋内の線量を落とすことを目指して、フォローアップ除染を実施する。ここまでは国の方針として決まっている。

- フォローアップ除染は、いかに公平性を保つかが重要だ。除染に関して蓄積されている個別のノウハウを住民に広く公表し、個別の状況への対応がどのように適切であるのかを説明できるようにしておくことで、公平性が持たれるようになるだろう。

→（檜葉町）住宅の取り壊しや再建の順番なども公平性には係ってくる。また、フォローアップ除染を実施する戸数が限られることで、住民の要望と合致しなくなるのでは、という懸念がある。フォローアップ除染実施の考え方について、住民の理解をどのように得ていくのかがこれからの課題だ。

→（環境省）資料 1 に示しているのは、今年度末までに実施する範囲。現在、平成 27 年度の方針を決めているところである。

- 住民の最大の要望は、放射線による不安要因を取り除くということ。住民の安全・安心には、生活圏に関係する樹木の問題が関わるだろう。森林全体の除染とは別に、帰還に伴う民家周辺の樹木の問題を解決する制度の設計が必要だ。委員会でも検討していくが、環境省など関係機関にも協力し知恵を絞ってもらいたい。

### 5. 水の安全・安心について（資料 2）

復興庁より、資料 2 に基づき、小山浄水場が供給する水道水の現状と安心に向けた取組について説明がなされた。検討の概要は以下の通り。

- 水に対する住民の懸念が多く聞かれたと聞いているが、それらはどのようなものだったのか。住民は水源を選べない。帰還するための判断材料になるのではないかと考えている。

→（檜葉町）水の安全性については一定の理解を得ていると感じている。しかし、例えば、大雨の時などに大丈夫か、水道を使う出口で大丈夫か、木戸ダムの底にセシウムが実際にあることが不安だ、などの声を聞いている。

- 資料 2 では、ダム底質土壌と取水堰との関係がほとんどないということを見ることができ、ダ

ムの底にあるセシウムへの懸念に対応して、良い説明ができています。

- 取水部分の懸濁濃度には、ダムの影響はなく、その他の要因の方が大きい。
- 住民の安全・安心について、基準の拠り所としては、公的な品質保証に 24 時間モニタリングと、限られたものとなっている。檜葉町住民からは、他の地域とは違い、より厳密な基準の拠り所が要望されるだろう。このことを行政が理解し、行政が提供できるリソースの中で、最高水準のものを小山上水道に期待したい。
- 檜葉町の一部では、沢水を基とする簡易水道が使われている。そのような水源の管理についてはどうしたらよいか、検討しなければならないだろう。

→ (檜葉町) 現在、週 3 回、沢水のモニタリングを実施している。

## 6. モニタリング等について (資料 3)

檜葉町より、資料 3 に基づき、檜葉町モニタリング結果および除染仮置場監視員について説明がなされた。検討の概要は以下の通り。

- 測定結果の多くに ND と記載されているが、このようなデータには検出限界値をつけておくことが必要だ。
- 家屋内表面汚染密度測定の結果について、これらの値がどの程度シビアなのか、という判断基準がわからない。今回の結果は、例えば管理区域から一般環境に出す場合の基準である、4 Bq/cm<sup>2</sup> と比べても特段高くない。このように、汚染の程度を考える上での参考値があるとよいのではないのか。
- ストロンチウムの測定結果は、mBq/L のオーダーであり、事故前の測定値と比較しても、今回の事故由来ではないと考えてよいだろう。これを受けて、ストロンチウムについて、今後の経年測定を実施していく必要があるかどうかとも検討する必要があるのではないのか。
- 放射線モニタリングの方法について、これは森林におけるモニタリングにも応用可能と考える。展開していくことも考えてほしい。
- 地産地消の檜葉町を目指すとき、川魚がひとつの問題になるだろう。河川をきれいにしていくことが、地産地消の一端に結びつく。きのこ、山菜、鳥獣についても同様である。これらは 30 年、50 年という長期的課題としてロードマップを作っていく必要があるだろう。
- 檜葉町を取り戻すためにも、地産地消の食品の測定を厳密に行ってほしい。町で実施しているモニタリングに関し、よりきめ細かな品質管理が必要になる。長期的には、専門家との協力体制を構築するなど、町と専門家との役割分担も考慮して、サステナブルな体制作りも含めて検討してほしい。

→ (檜葉町) 今回、例えばストロンチウムの分析については、外部に依頼して実施した。町でできる部分、できない部分を明確にして、専門家との協力体制づくりを進めていきたい。

→ (福島県) 県の原子力センターでは、モニタリングを継続して実施している。県としては今後も同様のモニタリングを実施するつもりだ。その中で、例えば、地産地消の食品のモニタリングを、国、県、自治体のどこが担当するかということも含めて、議論していきたい。

## 7. 意見交換

- 秋光委員より、本日の委員会のまとめについてレポート案が示された (追加資料)。これを基に議論がなされた。大きなポイントとして、①除染への取り組みについて、②水の安全・安心に対する取り組みについて、とまとめられた。

- 引き続き、資料 4 に基づき、第二次報告に向けた現状等の確認・整理（案）について、それぞれの項目の詳細な検討がなされた。

## 8. まとめ

- 水に対し、過度に心配されている気がする。今回の資料からも水道にセシウムが含まれないことがわかる。過度に心配しているのは、先入観があるための可能性がある。これに対して丁寧に説明していく必要がある。
- 相談員制度は除染の取り組み全体を説明する役割を持つだろう。
- 数値を評価するためには、その数値をどんな意味合いを持つのがわかるように、何かと比較することが必要だ。住民の目線で理解しやすい比較の方法を検討しなければならない。
- 議論が森林除染の話題に近づいている気がする。林業の再興も踏まえて検討する必要があるだろう。
- 森林、ダム、河川について検討課題はまだ残っているが、住宅、道路、水など、住民の生活が係わる部分についての状況はずいぶん見えてきた。リスク・コミュニケーションが大切だ。特に、子供に対するコミュニケーションに重点を置いてみたらどうか。
- 皆さんと協力して、子供が胸を張れる檜葉町の復興をしていきたい。フォローアップ除染など、柔軟、かつ、役に立ち、効率的なものを作ることが大切と思う。水に関しては、今回よいまとめができたと思う。
- （檜葉町）年度内にもう一度委員会を開き、第二次報告を作る予定である。

以上